**棟方　寅雄 （むなかた・とらお）**

**１、プロフィール**

詩誌「日本詩人」・「詩神」らに詩を発表。福士幸次郎に私淑。また洋画家としては、中川一政・岸田劉生に師事後、一陽会会員として活躍。昭和33年上記の詩誌の発表詩を中心にまとめた詩集『邂逅』を刊行した。

＜生没＞

1902（明治35）年３月27日 ～ 1992（平成４）年８月11日

＜代表作＞

詩集『邂逅』

＜青森との関わり＞

弘前市に生まれる。詩誌「鴉」らに詩を発表した。戦後、弘前市に居住し、活躍した。

**２、作家解説**

詩人・洋画家。明治35年弘前市相良町に生まれる。十代に短歌の創作を始める。十代の終わり頃、佐藤紅緑宅で福士幸次郎に会い、以後、私淑兄事する。大正13年９月「日本詩人」に詩２篇（「貧しき画人」・「あゝぼんやりした此の生」）が掲載された。翌14年２月「日本詩人」に福田正夫選により「野原の中央」・「静かにあゆむ雲」が掲載され、その１篇の「野原の中央」が詩話会賞の三席に選ばれる。それ以後「日本詩人」に詩を発表。大正15年「日本詩人」終刊後、田中清一主宰の「詩神」に詩を発表する。本県の詩誌「鴉」（昭和２年）・「信号燈」（昭和４年）らに詩を発表する。これ以降詩作から次第に遠ざかっていく。洋画では、中川一政・岸田劉生に師事し、昭和３年以降、春陽会、二科会等に出品した。

戦後弘前に帰郷する。昭和30年には一陽会会員となり、活動する。昭和33年５月、既発表の詩作品を中心に収録した詩集『邂逅』を刊行した。また、昭和38年半年にわたり、イラン・ヨルダン・イスラエルなど各地をスケッチ旅行し、その時の感興を短歌にまとめ、以前創作した短歌とを併せて、昭和39年11月歌集『ダマスカスの門』を刊行した。兄事した福士幸次郎については、『郷土の先人を語る（３）福士幸次郎』（昭和44年１月）がある。平成４年８月11日盛岡市において90歳で死去。詩作品数は少ないが、とりわけ戦前の詩は、みずみずしい感性で、日向的に実存することへの苦悩を、リリカルに描いている。

**３、資料紹介**

〇『邂逅』

図書

1958（昭和33）年５月10日

150mm×120mm

詩集。昭和33年５月10日発行。発行所緑の笛豆本の会。内容は詩14篇を収録。内10篇は詩誌「日本詩人」・「詩神」に掲載されたもの。ほかの４篇は戦後の詩作品である。収録されている詩篇の数は少ないが、棟方の詩業の全貌を概観できる。